

[普及事項]

新技術名： リンゴ、ナシ新殺菌剤の実用化（平成8～11年）

研究機関名 果樹試験場環境部病害担当、鹿角分場、天王分場
担 当 者 水野 昇・深谷 雅子 他3名

[要約]

ダイパワー水和剤 1,000倍はリンゴ斑点落葉病防除を主体に6月上旬以降の主要病害に、ポルックス水和剤 1,000倍はナシの輪紋病を主体に6月中旬から8月上旬にかけての防除剤として実用性が高い。

[ねらい]

新しく開発された殺菌剤について、果樹の主要病害に対する防除効果を検討し、実用性の高い薬剤を県防除基準に採用して、果樹病害防除体系の改善を図る。

[技術の内容・特徴]

ダイパワー水和剤：斑点落葉病に効果が高いイミノクタジンアルベシル酸塩とキャプタンの混合剤。6月下旬以降の斑点落葉病防除を主体に汎用性の高い剤である。既採用のベルコート水和剤とキャプタン剤の混合剤で適用病害の予防効果にすぐれる。夏期総合防除剤と位置づける。

ポルックス水和剤：ナシにおいて6月から8月の散布により、輪紋病に対し防除効果が認められる。なお、炭疽病に対しても効果が認められ、同時防除が可能である。また、セイヨウナシの‘ラ・フランス’や‘シルバーベル’等、ニホンナシの‘幸水’や‘八雲’に薬害は見られず、実用性がある。

[普及対象範囲]

県内のリンゴ、ナシ栽培地域

[普及・参考上の留意事項]

ダイパワー水和剤：芽出し2週間過ぎから落花25日頃まではサビ果を発生する可能性があるので注意する。セイヨウナシ品種‘ル・レクチェ’ではサビ果を生じる。

ポルックス水和剤：既存のオキシラン剤およびキャプレート水和剤と同様に6月中旬から8月上旬にかけての防除剤として使用する。開花始めから落花20日頃（養分転換期）までは薬害の恐れがあるので使用しない。炭疽病に対しては未登録なので、今後、登録を取得する必要がある。

[具体的なデータ等]

第1表 リンゴ斑点落葉病に対する防除効果 (果試環境部：1996年)

供試薬剤		7月10日調査		8月16日調査		発生度*
		調査	発病	調査	発病	
		葉数	葉率	葉数	葉率	
ダイパワー水和剤	1,000倍	673	3.9%	911	11.5%	2.6
トモオキシラン水和剤	500倍	628	2.1%	727	10.3%	2.1
無散布	-	657	19.8%	829	49.5%	16.5

供試樹：‘スターキング・デリシャス’ / マルバカイドウ、12年生
 散布月日：6月12日、24日、7月9日、22日、8月5日の計5回

第2表 リンゴ炭疽病に対する防除効果 (果試環境部：1997年)

供試薬剤名		調査果数	発病果率	薬害
ダイパワー水和剤	1,000倍	1,049	16.7%	無
オーソサイド水和剤80	800倍	806	1.4%	無
無散布	-	1,411	68.2%	

供試樹：‘王林’ / マルバカイドウ、17年生
 散布：7月10日、23日、8月6日、21日、9月5日の計5回
 接種：分生孢子濃度 $10^4 \sim 10^5$ 個 / を7月17日、8月5日、20日、9月3日、11日の計5回降雨中あるいは降雨直後に行った。
 調査：9月24日までの発病果の累積。

第3表 西洋ナシの輪紋病に対する防除効果 (天王分場 1999年)

薬剤名	希釈倍数	調査果数	発病果数	同左率 (%)	防除価
ポルックス水和剤	1000倍	201	1	0.5	84.3
キャブレート水和剤	500倍	133	0	0.0	100.0
フジオキシラン水和剤	600倍	122	0	0.0	100.0
無散布	-	376	12	3.2	-

供試品種：場内 ‘ラ・フランス’ 成木
 散布月日：7月6日、16日、26日、8月2日の計4回
 調査月日：11月16日

第4表 西洋ナシの炭疽病に対する防除効果 (天王分場 1999年)

薬剤名	希釈倍数	調査果数	発病果数	同左率 (%)	防除価
ポルックス水和剤	1000倍	201	2	1.0	83.7
キャブレート水和剤	500倍	133	0	0.0	100.0
フジオキシラン水和剤	600倍	122	0	0.0	100.0
無散布	-	376	23	6.1	-

供試品種：場内 ‘ラ・フランス’ 成木
 散布月日：7月6日、16日、26日、8月2日の計4回
 調査月日：11月16日

[発表文献等]
 なし